



開館時間

●中央図書館

平日 9:00~20:00

土日祝 9:00~18:00

●豊科・三郷・堀金・明科図書館

10:00~18:00

●全館共通休館日 ※特別整理期間 ○堀金図書館 ■豊科図書館 □三郷図書館 ●明科図書館 ○中央図書館

安曇野市図書館  
キャラクター「ぼぼん」



## 6月の図書館イベント

日 日時 場 場所 対 対象 講 講師 費 費用 定 定員 持 持物 申 申込

### 信州横断 昭和・現代史講座① 戦中から現代を映す鏡・「暗黒日記」



県図書館協会が6月から2月にかけて県内各所で行う信州横断講座の第1回目。清沢潤の「暗黒日記」をテーマに朗読会と講演会を行います。

日 6月29日(土)13:30~16:00

場 穂高交流学習センター「みらい」多目的交流ホール

講 朗読会:伊東秀一さん(テレビ信州アナウンサー)

講演会:渡辺知弘さん(信濃毎日新聞社報道部デスク)

問 中央図書館 Tel.84-0111

### 中央図書館 教科書展示会



小学校や中学校等で使用する教科書や教科用図書等を展示します。学校でどのようなことが学ばれているか、ぜひこの機会にご覧ください。

日 7月3日(水)~18日(木)

場 中央図書館中央通路奥

他 主催:長野県教育委員会 中信教育事務所

問 中央図書館 Tel.84-0111



中央図書館では、今市内の小中学校で使われている教科書等を所蔵しています！

### 農家の皆さん 家庭菜園をお持ちの皆さん

### ルーラル電子図書館のご紹介



ルーラル電子図書館とは、(一社)農山漁村文化協会が運営する有料の農業情報サイト。栽培技術や加工・販売ノウハウなど農業に関するさまざまな情報の検索・閲覧ができます。図書館の利用者登録をしていれば、どなたでも無料で利用できますので、ぜひご活用ください！



※中央図書館でのみ利用できます  
※利用は1日1回、1時間まで

#### 収録作品例

- ▷最新 農業技術辞典
- ▷月刊「現代農業」
- ▷新・野菜づくりの実際
- ▷農学基礎セミナー
- ▷農作業ビデオ ほか

### エンジョイ！農ライフ

中央図書館では、農業をテーマに資料を集め、通年の企画展示をしています。5月のテーマは「草を知って草を制す」。6月は「虫を知って虫を制す」です。ぜひ足を運んでみてください。



### 映画上映会

費無料 定100人 申不要(当日先着順)



穂高を愛した男 宮田八郎 命の映像記録(99分)

穂高連峰で小屋番を務めた宮田八郎さん(享年52)が、30年にわたり撮影し続けた奇跡の瞬間の数々。なぜ人は山に登るのか。愛する穂高で、究極の問いに向き合った宮田さんの命のメッセージ。

日 6月14日(金) 開場17:30 上映18:00

場 穂高交流学習センター「みらい」多目的交流ホール

問 中央図書館 Tel.84-0111

## 文化施設

### 展覧会・イベント情報

豊科近代美術館は大規模修繕工事のためホールなど全施設の貸し出しが6月1日から令和7年8月31日(予定)まで休止します。

施設名	展覧会・イベント	日時・場所	費用・定員・申し込み
安曇野高橋節郎 記念美術館 Tel.81-3030	生誕110年記念 友の会会員展	日 5月18日(土)~6月9日(日) 場 エントランスホール・主屋	費無料
豊科郷土博物館 Tel.72-5672	ボタニカルアート展・写真展	日 6月1日(土)~23日(日) 場 2階展示室	費要入館料
田淵行男記念館 Tel.72-9964	田淵行男写真展 大雪山	日 6月4日(火)~9月1日(日) 場 1階展示室	費要入館料
	松本一男写真展 岳と谷 穂高岳から劔岳まで	日 6月11日(火)~9月8日(日) 場 地階展示室	費要入館料
	松本一男×水越武 座談会 山岳写真と田淵行男大雪山撮影の 思い出など	日 7月7日(日)17:00~ 場 1階展示室	費要入館料 定30人(先着順) 申 6月1日(土)から電話で
貞享義民記念館 Tel.77-7550	下田忠壽写真展 昭和の稲作	日 6月8日(土)~22日(土) 場 1階企画展示室	費無料
文書館 Tel.71-5123 Fax.71-5127	講演会 過疎化の中で地域資料を守る 相川陽一さん(長野大学教授)	日 6月16日(日) 13:30~15:00(開場13:00) 場 堀金公民館講堂	費無料 定100人(先着順) 申 5月27日(月)から電話、 ファクス、電子メール (☒bunshokan@city. azumino.nagano.jp)で

■休館日、開館時間などは各施設へお問合せください

## 第22回 コラム 市誌編さんだより

### 卑弥呼の時代の安曇野

市誌編さん専門調査会 考古部会  
専門調査員 白居直之

弥生時代後期(2世紀から3世紀前半)は、魏志倭人伝に「倭国大乱」と記されたのとおり、大規模な争乱が起こり、小さなクニから大きなクニに転換する時代でした。安曇野では、この時代の竪穴住居跡が明科・穂高地の7カ所から20棟ほど見つかり、豊科・三郷地区では土器が出土しています。住居跡のまわりを見ると、国道147号沿いには大規模な集落が存在していたことが想像できます。

これらの遺跡からは、ベンガラによって赤色に彩色された「赤い土器」が出土しています。赤色は古代より、「悪を払い、善きものを呼び込む力がある」とされている色です。赤く彩色された土器は全国に見ることができませんが、この地域の「赤い土器」には①一定比率の顔料を粘土に混ぜて入念に磨き塗りをする技法②煮炊きする甕以外の壺や鉢などの器で、赤に彩色さ

れている面積の比率が高いという二つの特徴があります。この特殊な「赤い土器」は、長野盆地を中心とする千曲川流域一帯に分布する箱清水式土器と呼ばれる一群に属しています。このことから、この時代の安曇野は、「赤い土器」をもつ東・北信のクニの一角として存在していたことが分かります。



矢原遺跡群三枚橋遺跡出土の赤い土器